

登録コード	L1330200	開講年度	2026				
担当教員	木村 宏人			副担当			
授業科目	文化情報論基礎実習						
英文授業名	Rudimentary Data Processing Practice						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限 水曜・4時限
講義室	人文文化情報論実習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			社会・文化について、学術的な知識を用いて自身の問いを立て、調査によってより正しい認識をえることができる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			社会・文化について、洞察を深めるための基本的な素養と専門知識を身に付けることができる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			社会・文化について、問いの設定から報告まで、実際に量的な社会調査を正しく実施することができる。			
授業で学べる「テーマ」	地域運営、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	すでに調査票調査の基礎を身に付けた学生が、実際に調査票調査を実施してその知識を技術を習得する。具体的には問いと仮説の設定、調査票作成、サンプリング、実査、データクリーニング、データ集計・分析、報告書の執筆、口頭発表を行う。						
授業計画	1. 授業の進め方と調査の全体像、調査倫理 2. 問いの設定 3. 仮説の設定 4. 仮説の設定 5. 調査票の作成 6. 調査票の作成 7. 実査 8. データクリーニング 9. データの加工 10. 基礎集計 11. 仮説の検証 12. 仮説の検証 13. 報告書の作成 14. 報告書の作成 15. 口頭発表、まとめ、授業アンケート						
成績評価の方法	授業中の取り組み（30％）、課題：毎回の調査遂行課題および最終レポート（70％）を合計して評価する。						
成績評価の基準	卓越している（90%以上）：意義の高い問いを立て、適切に調査を実施し、説得力のある論理的な報告書を作成できる。 かなり上にある（80%以上90%未満）：自ら明確な問いを立て、適切に調査を実施し、論理的な報告書を作成できる。 やや上にある（70%以上80%未満）：適切に調査を実施し、論理的な報告書を作成できる。 合格水準にある（60%以上70%未満）：調査の実施手順を理解し、一連の報告書を作成できる。						
事前事後学習の内容	ほぼ毎回課題が出され、それに取り組む必要がある。						
履修上の注意	文化情報論領域の2年生は前期の「文化情報論基礎実習Ⅰ」とセットで本授業を受講すること。他専攻の学生でも、前期の基礎実習を履修しており、教室収容人数に余裕があれば、本授業を履修できる。ただし、開講前に文化情報論領域の教員に相談すること。						
質問、相談への対応	授業前後にお願いします。時間を要するものは別途対応しますので、事前にメールで連絡してください（メールアドレスは初回授業時に示します）。						
教科書	資料を配布する。						
参考書	轟亮・杉野勇・平沢和司編、2026、『入門・社会調査法〔第5版〕』法律文化社。 ほか、授業内で指示します。						